

演色による明るさ感と色の見え方の違い

水銀灯 230W

79%ダウン

無電極ランプ 48W



地面の照度47ルクス

地面の照度45ルクス

照度計で計測したところ数値はほぼ同じにもかかわらず、無電極ランプのほうが明るく感じました
演色が高い無電極ランプは数値よりも明るく感じられます

■ 演色性の違いによる物の見え方

*演色性(えんしょくせい)とは

照明器具が物体を照らしたとき、その物体の色の見え方に及ぼす光の性質のことでRaという単位で表します

水銀灯の演色はRa45 無電極ランプの演色はRa85です(太陽光は最高点のRa100)

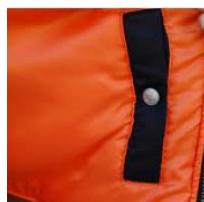
太陽光で見た場合に近いほど演色性がよいとされます

水銀灯

無電極ランプ



本来のMA1の裏地



左の写真はMA1というフライトジャケットの裏地を水銀灯と無電極ランプの下で撮影したものです(救難用に裏地は鮮やかなオレンジ色です)

水銀灯は演色が低いため、黄色く見えます(地面のアスファルトも緑がかって見えます)

このように色の見え方に大きな差が生じ、人が感じる明るさ感も違ってきます。

これはコンビニストアの駐車場で撮影したのですが、仮に不審者を目撃して、『上着の色は何色?』と尋ねられたら、全く違う色の上着の不審者を探すことになってしまいます

演色はとても大事な要素と考えます